

文京区

BUNKYO GENDER EQUALITY CENTER

# 男女平等センターだより

2010

No. 66

Topics

特集

第25回 文京区男女平等センターまつり

きのう きょう あしたへ

あなたとわたし

自立と協働

明日への一歩

## Contents

- メイン展示「男女平等を(知る)ことは、明日への一歩」 3
- 育メントーク「子育てって 楽しいかも」 4
- まつりシネマ/ミニ音楽会 6
- まつりコンサート 7
- 「女性管理職は語る」 8
- **プラスワンセミナー** 「小さなものに寄せるココロ」 10  
「自分の原点! 振り返り」
- 区からのお知らせ/本の紹介 11

2010年12月15日発行

発行/文京区女性団体連絡会 会長 大川米子  
〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号  
TEL.03-3814-6159 FAX.03-5689-4534

文京区男女平等センターは  
文京区女性団体連絡会(文女連)が  
指定管理者として管理・運営しています。



# 男女平等を 知ることは明日への一歩

男女平等センターが知られていないので、**知る**をキーワードに組み立ててみました。

## (1) 知る 男女平等センターって なんてこと?

五つの研修室(ピアノ2台)・調理実習室・和室(茶道具有)・保育室・相談室等があり、朝9時〜夜9時半まで誰でも使用できます。グループを登録すると利用料が半額になります。

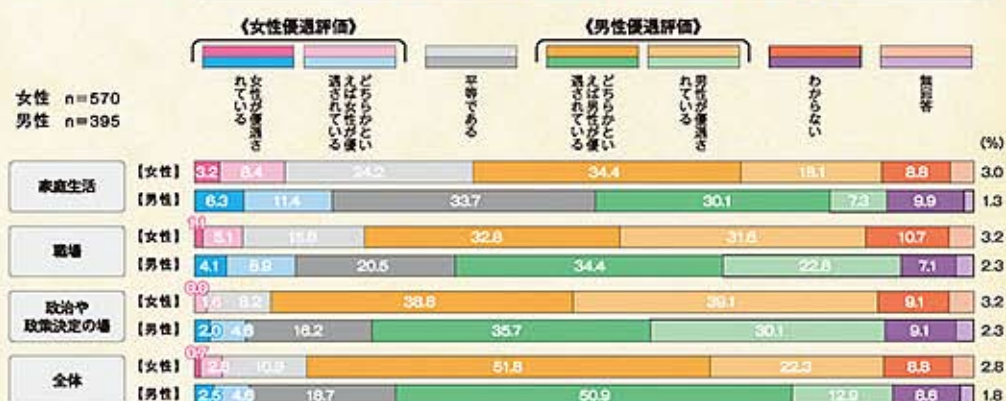
文京区女性団体連絡会(文女連)が運営し、男女共同参画社会を目指し、学習会・講演会・見学会など啓発活動を行っています。文女連には、区内83の女性団体が加入し、15名の常任委員が事業を計画し自主運営を行って20年になり、指定管理者を受けて5年目になります。

## (2) 知る 文京区民の意識調査 (H.21.9実施)

固定的役割分担意識は減少しており、政策決定過程への参加は上がってきて、女性区議会議員は36.4%、各種女性審議会委員は31.1%(H.21.4現在)ですが、男女平等観では「男性優遇」と感じている人が多数を占めています。(図1)

(図1)男女平等観

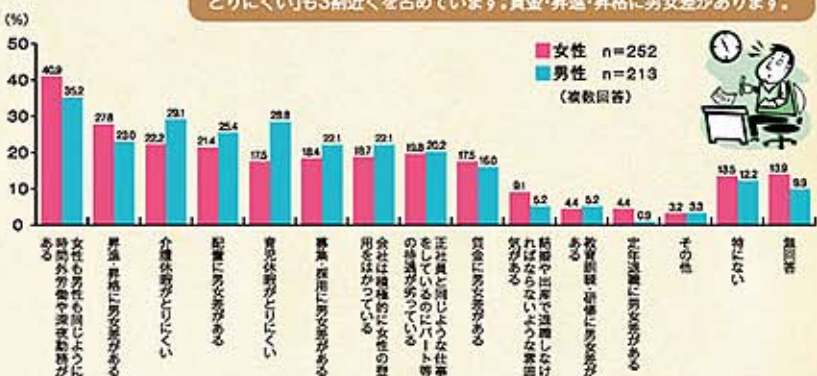
さまざまな分野で男性優遇と感じている人が多数を占めています。



(図2)

## 職場での男女差別

男女ともに「女性も男性も同じように時間外労働や深夜勤務がある」と答えた人が最も多くなっています。男性では「介護休業がとりにくい」、「育児休業がとりにくい」も3割近くを占めています。賞金・昇進・昇格に男女差があります。



職場では採用・賞金・昇進・昇格などまだまだ男女差別が残っていることが分かります。(図2)

## (3) 知る 遅れている男女平等 国連からの勧告

昨年6月、国連の女性差別撤廃委員会は日本政府に左記の勧告を行いました。

- ①結婚最低年齢を男女とも18歳にする
- ②女性の再婚禁止期間を廃止すること
- ③選択的夫婦別姓制度を導入すること
- ④婚外子の相続の差別をなくすこと(現在は嫡出子の1/2)
- ⑤「女性差別撤廃条約」選択議定書(個人通報制度と国連の調査制度を内容とする)を批准すること

## (4) 知る 女性と自立

私たち女性は経済的にも精神的にも自立していきたいと願っています。

①経済的自立―大変困難な状況にあります。女性の貧困率は男性より高く、特に高齢単身女性、母子世帯で高くなっています。現在も女性の労働力率はM字カーブを描いており、出産・子育てで退職せざるを得ない人が多いため、子育て・老親の介護をしながら



働き続けられる環境の整備、保育所・特養老人ホームの増設が必要です。正規社員・非正規社員の労働条件の均等待遇も急がねばなりません。

①男女の賃金格差の大きさ	
正社員男性	100とすると
正社員女性	69.8%
非正規男性	54.8%
非正規女性	49.1%
②非正規社員の急激な増加	
働く女性の53.2%は非正規社員	
非正規労働者の7割は女性	

42.5%は200万未満

③女性の年収	
100万円以下	16.4%
100~200万円	26.1%
200~300万円	23.0%
300~400万円	16.1%
400万円以上	18.2%

(男女共同参画白書)

②精神的自立—女性も男性も自分のことは自分で決められる自立した個人として、対等にお互いに向き合って協力し合う関係を作ることです。

**(5) 知る 誰にも老いはやってくる！**

①文京区の特別養護老人ホームは6ヶ所、入所者数は399人、区外の施設枠は75人です。この8月現在の待機者数は852人です。区民意識調査でも、男性の介護参加は必要であり、その為の労働時間の短縮や、男性の介護休業制度を取りやすくするなど、声が寄せられています。

②高齢女性の困難な状況—国民の5人に1人が65歳以上で、6割が女性です。85歳以上では7割が女性です。家族内の介護者の7割が女性で、老々介護が増えています。ヘルパー等の介護労働者は8割が女性で、重労働にもかかわらず賃金の低さが問題です。高齢女性には経済的に厳しく、単身女性は3割が120万円未満の年収です。

**(6) 知る 暴力・虐待のこと！ 女性・高齢者・子ども**

**D.Vは重大な人権侵害、犯罪です。**

**態度による暴力**

無視する、嫌がらせ行為、ストーカー行為、頻繁な電話、過激な嫉妬、物を投げる、大声で怒鳴る、たたく、なぐる

**言葉による暴力**

人を傷つける言葉を使う  
ばか、デブ、ブスなど

**経済的暴力**

金銭を買わせる 金銭を取り上げる必要な金銭を渡さない

**性的暴力**

合意のない性交渉  
性交時に痛めつけたり、屈辱する行為をする

**心理的暴力**

毎日電話を強制する  
携帯電話のチェックなど

高齢者・子どもに対してはこの他に介護・世話の放棄があります。死に至らせることもあります。

**(7) 終わりに**

D.Vとは、配偶者や恋人、婚約者同棲相手、ボーイフレンドなど、個人的で親密な関係にある人からふるわれている暴力をいいます。原因は不平等な関係です。

「文の京」といわれ、平和を希求している文京区では子どもの命を守り、見捨てられた高齢者を出さないように、地域の見守りの輪を広げることが大切です。

あふれる情報の中で、社会の動きを冷静に見つめ何が大切か、何が必要か、いわゆるメディア・リテラシーの学習も大切な分野だと思っています。

「文の京」といわれ、平和を希求している文京区では子どもの命を守り、見捨てられた高齢者を出さないように、地域の見守りの輪を広げることが大切です。

文京区女性団体連絡会は、男女平等センターの周知に力を入れ、男女平等の啓発・人権尊重の社会を目指して地域のよりどころとなるよう活動をしていきたいと思っています。

(メイン展示担当)



**まつり「資料コーナー」**



「いっほんのえんびつのもころにあなたは何が見えますか？」と題してパネルを展示しました。そのパネルを熱心に見ている方にインタビューしてみました。

Q.大変熱心にこちらになっていらっしゃいますが一言感想をお願いします。

A.ロビーに入っすぐこのパネルが私の目にとまりました。内容も絵で表現しているのが分かり易く、特に色彩がとても優しく感じられ私の心を癒えました。

鉛筆を作った人達の願いやそこにこめられたいのち。私は昭和6年生まれなので、特攻隊の話には涙が出ました。このパネルを見て改めて「物のいのち」を考えて日々の暮らしを見直したいです。素晴らしい提案をされていると思いました。



# イクメントーク 「子育てって楽しいかも!!」

定着しつつある「イクメン」(育児を積極的に楽しむ男性)という言葉、厚生労働省でも「イクメンプロジェクト」が出来ましたが、社会を変えることが出来るでしょうか。成澤廣修文京区長が長男誕生をきっかけに2週間の「育休取得」を実行されたことは、テレビの取材、雑誌記事、新聞記事、では29件に及びました。

内閣府主催の「全国女性会議」におけるシンポジウムのパネリストに、また「ベストマザー賞」も受賞され、この制度の周知、アピールに大々的に貢献されたように思われます。

コーディネーター：吉田大樹氏 (NPO法人ファザーリングジャパン理事)

パネリスト：成澤廣修氏 (文京区長)

：青野慶久氏 (サイボウズ(株) 代表取締役社長)



## Q 育児休業をとられて感じた事は？

成澤区長

「なんちゃって育休」と称して自治体の首長としては、初めて4月に取得したところ、6月には長野県佐久市の市長、次に茨城県龍ヶ崎市長、続いて三重県伊勢市長と4人の首長が育休を取りました。4月から8月までの確率とすればかなり高いと考えられる。首長がリーダーシップを発揮し、流れを止めないように発信しトレンドを目指したい。

青野氏

ITの会社を立ち上げ、現在300人の従業員がいる上場第1部の会社の社長として、日頃働きやすい職場を目指していろいろ制度を整えてきました。日経新聞から「子育て大賞」を会社自体が受けていました。自身も「育休」を取り、今「育児とはなんぞや」と言う事を学んでいるところ。

## Q 自分としては「土日は父子で過ごす」事に挑戦しているが、子どもとの関わりは？

成澤区長

子どもの一日のリズムのため朝の覚醒は大事という説もあり、朝風呂に入れようと決め実行している。父親の育児参加は家族と一緒に子どもと向き合う事と考えている。

青野氏

自分の中で「男は仕事第一」と世の男性の思いに似ている。葛藤しつつ、ストレスを感じながらも土日は出来るだけ触れ合っていこうと努力している。

## Q 育休を取ろうと思ったきっかけは？

成澤区長

家族に愛情を捧げ大切にしたいと思った。区の男性職員の育休取得0%だったことから、男女平等参画推進会議でリーダーシップが必要、職員が取りやすい環境を作るべきとの意見、意向があったことも決意のきっかけになった。

青野氏

区長の決断に感銘したが、仕事に生かすことが主眼の考え方だった。区長との交流で「育児とは人類の未来を作る仕事」だと優先順位が変わった。ビジネスも人材育成が大事、次の世代への世の中の動きに気付き、ストレスが減り楽しくなってきた。

## Q 育児・介護休業法が改正され、それぞれ取得率アップを目指すには？

成澤区長

改正によって取得しやすくなった。区の推奨プランとして出産後言い出しにくい雰囲気を少なくするために上司から「検討してみてもどうか」と勧めてみることにしたい。

青野氏

男は仕事、女は家事育児という時代から、多様性を認め受け入れていく柔軟性のある企業体であるべきと考えている。

吉田氏

●育休取得率は女性が85.6%に対し、男性は1.72%。  
「女性の育児参加」「男性の社会進出」などという言葉を決して使わないのだから、「男性の育児参加」「女性の社会進出」という言葉が使わなくてもいいような社会を目指していくことが必要だと思う。

長時間労働による過労死やうつ病に苦しむ男性、孤独で過酷な母親一人での育児に悩む女性。このイクメンの制度が確立したら育児を楽しむ男性と社会進出を果たす女性とで、経済が活性化し企業にも変化をもたらし、地域も活性化するのは？と視点が大きく広がるようなトークを伺いました。  
(伊藤明子)



# 「女性管理職は語る」

平成22年10月16日(土)午後2時～4時

大川会長より多忙のなか出席頂いた5人の方への謝辞と挨拶に続いて会の進行についての説明があり話し合いに入りました。



## 1. 管理職を目指した動機・経緯・喜び・やり甲斐について——

**上野氏（(財)文京アカデミー／文京シビックホール館長・アカデミー文京所長）：**

管理職になって5年。男女平等センター所轄の係長の頃は自分の適性は実務だと思っていたが男女平等を推進していく上で自分から率先していくこともその役割ではないかと受験。子育ても終わり役所は昇進も男女平等で、いつからでもスタート出来る環境もプラスに働いたと思う。現在は自分のやりたいことがやれて、喜びややり甲斐もあり楽しい。その反面自分を磨くことの必要性和仕事への責任・怖さも感じている。

**小池氏（男女協働・子ども家庭支援センター担当課長）：**

男女雇用機会均等法制定前夜の入区。その頃から公務員は男女平等が進んでおり、子育てしながら働き続けられる状況だった。それでも、中経には女性は少なく仕事を通して女性の参画の必要性を感じた。働き続けるからには管理職へという上昇指向もあった。紆余曲折を経てみると視野も広がり自己成長のためにも良かったと思う。

**鈴木氏（教育改革担当課長）：**

4月から管理職になった。女性の係長・課長の下で働き女性の上司を身近に感じる恵まれた環境で自然な歩みだった。職場も男女差別は感じず特に公務員は試験制度で昇進するのでチャンスも平等にあり恵まれていると思う。

**須藤氏（契約管財課長）：**

以前福祉関係の仕事に携わっていた頃、遅々として進まぬ介護予防への取り組みへのもどかしさもあり一歩を踏み出した。なってみると入浴サービス・特別支援の取り組みなど「あ、やっぱり変えられる」と実感した。家族への負担を懸念したが、むしろプラスだった。

**高橋氏（介護保険課長）：**

子ども3人を育てながら遠方からの通勤は大変だった。動機は当時の仕事に満足できなかった事、先輩が輝いてみえた事、受験制度が緩やかで機会に恵まれていた事。現在60人近い職員と働いている。組織を動かすのは精神的にも大変だが全体を見ながら運営していくのも楽しいし、醍醐味でもある。

## 2. 男女平等参画社会実現の為に「政策決定の場に女性を」に視点を移し、国際・国・文京区の統計から現状を見てみよう——

（表を提示し、文京区的女性管理職が約15%という数値と自分の体験を交えて意見発表をお願いする）

優秀な女性が増えてきているので将来の展望は明るい。ワーク・ライフ・バランスの視点に立って全力投球より70%位にハードルを置き楽観的に物事を捉え処理することも大事だ。特に地方公務員は生活と直結しているので女性の視点を大切にしたいし、それを施策に生かしたいし、女性管理職はそれが出来る。

## 3. 参加者との討論と後輩へのメッセージ

**人材育成について——** 色々なことを経験すると適切で暖かい助言も出来る。それは女性が働き続けるためだけではなく、男女を問わず人材育成にも繋がるのではないと思う。

**職員の異動について——** 慣れた職員の異動でご不便をおかけすることもあるが、多くの職場を経験することで縦割りでない発想ができるようになる。長い目で職員を見守り育てて欲しい。

**女性の管理職が増えたと——** 生活と密着した区の施策には、男女両方の視点が必要なので、良い方向に向かう。

**育児と職場の両立は？——** 女性が働き続けることは大変だが時代要請でもあるので再雇用制度なども利用したい。働き続けることで別の展望も開けたりするので将来を見据え、最終決定は自分ですることが大事。

## 4. 終わりに

ワーク・ライフ・バランスの視点を大切に、家庭・職場・地域で男女の複眼的な見方や施策が実現できれば名実ともに男女平等社会が実現するだろう。会場には成澤区長も見え大変心強く思った。

（紙面の都合上、内容の割愛および要約をさせていただきます。）

（企画部）





# 「小さなものに寄せる」

日時：平成22年11月6日（土） 午後1時半

講師：お茶の水女子大学大学院

人間文化創成科学研究科准教授 森義仁氏

講師の森義仁先生はお茶の水女子大学の准教授で、文京区男女平等参画推進会議の委員です。このセミナーの主題は、身の回りに起こるさまざまな出来事の中から大切なものを見極める。セクハラによって意識が変わり、それが社会を変えて行く力になるという提言でした。

お茶の水女子大の実績や活動が紹介された後、話題は18世紀女性の時代から文京区民の意識調査そして区民による草の根活動へと進みました。

初めに18世紀のフランス上流社会をリードしたサロンでの話。当時はサロンで難しいテーマを平易に面白く説明して女性たちに認知されるのが、学者や芸術家の世に出る花道でした。言わば女性が社会を動かす「女性の時代」でした。因みに現代日本の理系の学会は、男性がトップを占めているそうです。

次に文京区民のワーク・ライフ・バランスに関する意識調査。男性は「仕事優先」、女性は「家庭生活優先」が、「両方とも優先」に対して男女とも2倍近い結果となっています。「ジェンダー」という言葉の認知度では、男女とも約半数が「知らない」と答えています。

最後に女性区民二人による環境保

全と廃品有効利用の活動。一人は生ごみを堆肥に変え、街路の花壇に花を咲かせています。もう一人は製本の余り紙で紙袋を作り、廃棄物を減らしています。二人とも身の回りにある小さなものに関心を持ち、セクハラを敏感に働かせることによって社会に貢献し、セクハラを持つことの大切さを伝えていきます。私たちの回りの小さなものには社会が反映しています。そして小さなものごとの変化によって社会が変わって行きます。

私たち一人ひとりがささやかなことにも心を寄せ、良い方向に変えて行くことというセクハラを持つ「仕事」が「家庭生活」かの二者択一ではなく「両方とも」優先できる社会へ、皆が環境問題を意識する社会へ、男性中心から男女平等参画の社会へ、と変えて行くことができる。ということを考えて行くことが、富んだセミナーでした。（広報部）



（広報部）

## プラスワン+1セミナー

### 女性の生き方 自分の原点・振り返り

生まれ直し生き直し

日時：平成22年12月4日（土） 午後1時半

講師：みずき助産院院長 神谷整子氏

出産現場から見える夫婦像・家族像

神谷先生は助産師として東京大学医学部付属産婦人科勤務の時に自宅でも出産したい、という多くの母親達との出会いがあり、「みずき助産院」を開設。



(1) 妊娠するということは3億分の1のミラクルである。妊娠10ヶ月間を継続することは、体と心の変化等いろいろなきっかけが起ころう、神が与えてくださった準備期間、助産期間であるのではないか。この10、20年間では時代・経済的变化が大きく、女性が自立出来るようになったからか、初産の高齢化があり、それに伴ってリスクも高くなっている。

(2) お産に立ち会う中から見えてきたもの。

\* 検診時いつも仕事を休み付き添って来ていた夫はO・Vを隠すためだった、と後に分かった。

\* 多忙なご夫婦でお腹の赤ちゃんと対峙していかなかった時、逆子になった。夫はお腹の赤ちゃんに話しかけ、妻は体と向き合い、心と向き合った。逆子の原因の1因は赤ちゃんが両親に訴えていたためか逆子は次の日に直った。（多くの場合自己回転で戻る。）

\* お姑さんがお嫁さんの自宅出産に立ち会い、大変感動して関係が円滑になった。

\* お互い再婚同士が多くなっている今、出産を通して一大家族になりたいという願う家族。

\* 出産時に思いやりのない空気の読めない夫と分り難い難産に至るケースもある。  
\* 赤ちゃんの産まれ方により、性格がだいたい分りアドバイスをするところがある。

\* 家族の原点 自分が今ここに居ることとは、生んでくれてありがとう、ということ。沢山のご夫婦、ご家族、赤ちゃんとの出会いから学ばれた貴重なお話を伺うことが出来ました。出産する事は自分がどのように生きていくか、パートナーにどのような生活を送りたいか、自分の原点を振り返り、家族の原点を再確認し産み直し、育て直しが出来る事である。

\* 最後にグループに別れ神谷先生に質問をしたり、楽しい交流会を持つ事が出来ました。（千代和子）